

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28319 プログラム名：目指せ発音マスター！～最新の音声認知ソフトと国際音声記号の活用～



開催日：平成28年8月6日(土)

実施機関：宮崎公立大学

(実施場所) マルチメディア第2講義室

実施代表者：戸高 裕一

(所属・職名) (人文学部・教授)

受講生：小学生26名

関連URL：http://www.miyazaki-mu.ac.jp/info/community/post_299.html

【実施内容】

1. プログラムの目的

本プログラムでは、音声認知ソフト「English Central(発音練習コース)」による英語の発音力判定と、実施協力者(音声学ゼミの学部生)による発音指導を実施することで、正しい発音方法を身に付けるとともに、参加者の基礎的な英語発音力向上を図る機会を設けた。

また、国際音声記号を用いることで、英語以外の外国語(ドイツ語・イタリア語・フランス語)についても、自立的な発音習得が可能となることや、発音リズムの変化によって、単語の意味が全く変わってしまう事例の紹介など、小学校英語の授業では触れる機会の少ない内容をあえて取り上げることで、英語や発音に対する興味関心を引き出す機会を設けた。

2. プログラムの実施に際し留意、工夫した点

(1) 班分け

人前での発音練習が苦手な参加者がいることを想定し、参加者を2名の班に分け、それぞれに学生を1名ずつ配置し、積極的にコミュニケーションを取らせた。それにより、参加者の緊張を緩和させることができ、発音練習を比較的スムーズに進めることができた。

(2) 音声認知ソフトによる発音力判定

音声認知ソフトは、小学生向けのコースを利用し、英会話スクールなどに通っていない参加者を考慮し、発音しやすい単語を練習させた。また指導を行う学生に対し、事前に統一した指導法をレクチャーすることで、スムーズな指導を行うことができた。

(3) 講義

参加者が退屈せず興味もてるような講義となるよう、資料はできる限り単純で明快なものになるよう努め、講義中にも必要に応じて発音させる機会を設けた。

3. 当日の様子



科研費の説明



講義①



講義②



発音レベルの測定と発音練習の様子



国際音声記号を活用したゲーム

修了証の交付

4. 当日のスケジュール

09:30～10:00 受付

10:00～10:30 開講式(開講の挨拶、科研費の説明)

10:30～11:10 講義

①「知っておもしろい、英語のリズム」(実施協力者:都築正喜(愛知学院大学・教授))

②「音声認識システムと国際音声記号」(実施代表者:戸高裕一)

11:10～12:00 発音レベルの測定と発音練習

12:00～13:00 昼食

13:00～13:45 発音レベルの測定と発音練習

13:45～14:15 音声記号カードを活用したゲーム

14:15～14:55 修了式(修了証授与、修了の挨拶)

5. 事務局との協力体制

代表者は、事務担当者と密に連絡をとり、連携しながら準備を進めた。昨年に引き続きの開催となったことから、前回の課題点等をふりかえり、工夫すべき点や留意する点について知恵を出し合った。

また、当日の運営補助、司会進行、受講者へのフォローのほか、委託費の執行管理、日本学術振興会との連絡調整、近隣小学校への広報活動、アルバイト学生への指導などの事務的協力を得ることができた。

6. 広報活動

(1)本学ホームページへの募集案内掲載

(2)宮崎市教育委員会への協力要請

(3)宮崎市内小学校への募集チラシ配布(宮崎市内小学校 48 校に在籍する全 5・6 年生)

(4)宮崎市広報紙への掲載

(5)小学生対象イベント告知サイトへの掲載

7. 安全配慮

(1)参加者を13班(1班あたり2名)に分け、各班に1名の学生を配置し、事故等が起きないように目が行き届く体制を取ることで、受講者の安全配慮に努めた。

(2)事前に参加者全員がレクリエーション保険に加入した。

8. 今後の発展性、課題

本事業は、26名の小学生に音声認識ソフトと国際音声記号を活用した英語の発音指導を行った。また、国際音声記号を活用することで、ドイツ語・イタリア語・フランス語の単語が読めることも体験した。

昨年度の参加者の上達を踏まえ、参加者全員に全ての英語子音と母音10音の練習を行ったところ、ソフト識別色が赤(識別不能な発音)から緑(ネイティブ並の発音)に移行した。但し、次回開催ができた場合には、以下の配慮を行う必要がある。(1)参加者の集中力を最大限にするために、45分×2回の発音練習を30分×3回にする。(2)国際音声記号の理解・定着を図るために、最初の30分の学習時間は音声記号の発音を徹底して行う。

また、今回は、小学校の英語指導の担当教員にも実際に参加をいただき、音声認識ソフト・国際音声記号の活用が、教員自身の発音上達はもとより、発音指導の補助として有効であることを確認していただいた。

このソフトは、ウェブ上でアクセス可能であること、安価であること(年間1万円程度)、音声認識ソフトの音声録音可能であることなどから、教員が好きな時間にネイティブの発音を聞き、自身の発音向上を図ることができる。教員の英語指導教員の発音・指導力向上により、この事業に参加できない生徒の英語力の向上にも寄与できると考える。

【実施分担者】

宮元 章次 宮崎公立大学 地域研究センター長(人文学部・教授)

【実施協力者】 15 名

【事務担当者】

福元 康敏 企画総務課・企画係長

上園 祥介 企画総務課・企画係

富永 しおり 企画総務課・企画係(地域研究センター)